



アプリケーション Virtual Desktop Service

NetApp
March 30, 2022

目次

アプリケーション.....	1
アプリケーションエンタイトルメント	1
AVD のアプリケーションエンタイトルメントワークフロー.....	4

アプリケーション

アプリケーションエンタイトルメント

概要

VDS には、アプリケーションの自動化と使用権に関する強力な機能が組み込まれています。この機能を使用すると、ユーザーは同じセッションホストに接続している間に、異なるアプリケーションにアクセスできます。これは、ショートカットを非表示にするカスタム GPO と、ユーザーのデスクトップにショートカットを選択的に配置する自動化によって実現されます。



このワークフローは、環境 RDS 配置のみを対象としています。AVD アプリケーションの使用権に関するドキュメントについては ' を参照してください ["AVD のアプリケーションエンタイトルメントワークフロー"](#)

アプリケーションは 'VDS で管理されるセキュリティグループを介して 'ユーザーに直接割り当てることもできます

アプリケーションのプロビジョニングプロセスは、以下の手順で構成されます。

1. アプリカタログにアプリを追加します
2. ワークスペースにアプリを追加します
3. すべてのセッションホストにアプリケーションをインストールします
4. ショートカットパスを選択します
5. ユーザーやグループにアプリを割り当てます



ステップ 3 と 4 は、次に示すようにスクリプトイベントで完全に自動化できます



NetApp Virtual Desktop Service

Application Management

Toby vanRoojen
Product Marketing Manager
June, 2020

ビデオチュートリアル

アプリケーションカタログにアプリケーションを追加します

VDS アプリケーションエンタイトルメントは、App Catalog から始まります。これは、エンドユーザー環境への展開に使用できるすべてのアプリケーションのリストです。

カタログにアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します

1. VDS にログインします <https://manage.cloudworkspace.com> プライマリ管理者のクレデンシャルを使用する。
2. 右上の矢印アイコンをクリックして、[ユーザー名] の横にある [設定] を選択します。
3. [アプリケーションカタログ (App Catalog)] タブをクリックする。
4. [アプリケーションカタログ] タイトルバーの [アプリケーションの追加] オプションをクリックします。
5. アプリケーションのグループを追加するには、[アプリケーションのインポート] オプションを選択します。
 - a. ダウンロードする Excel テンプレートを提供するダイアログが表示され、アプリケーションリストに適した形式が作成されます。
 - b. この評価では、ネットアップ VDS はインポート用のサンプルアプリケーションリストを作成しました。このリストは、こちらから参照できます。
 - c. [アップロード] 領域をクリックし、アプリケーションテンプレートファイルを選択して、[インポート] ボタンをクリックします。
6. 個々のアプリケーションを追加するには、「アプリケーションを追加」ボタンを選択すると、ダイアログボックスが表示されます。
 - a. アプリケーションの名前を入力します。
 - b. 外部 ID を使用して、製品 SKU や請求トラッキングコードなどの内部トラッキング ID を入力できま

す（オプション）。

- c. アプリケーションをサブスクリプション製品としてレポートする場合は、[サブスクリプション]チェックボックスをオンにします（オプション）。
- d. 製品がバージョン（Chrome など）ごとにインストールされない場合は、[バージョンが不要]チェックボックスをオンにします。これにより、バージョンを追跡することなく、「継続的な更新」製品をインストールできます。
- e. 逆に、製品が複数の名前付きバージョン（QuickBooks など）をサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにして、複数のバージョンをインストールし、使用可能な各バージョンをエンドユーザが使用できるアプリケーションのリストに記載して VDS を設定する必要があります。
- f. VDS でこの製品のデスクトップアイコンをプロビジョニングしない場合は、[ユーザーデスクトップなし]アイコンをオンにします。これは、エンドユーザがアクセスするアプリケーションを持っていないため、SQL Server などのバックエンド製品に使用されます。
- g. 「アプリを関連付ける必要があります」とは、関連付けられたアプリをインストールする必要性を強制するものです。たとえば、クライアントサーバーアプリケーションでは、SQL Server または MySQL もインストールする必要があります。
- h. License Required（ライセンスが必要）ボックスをオンにすると 'VDS はアプリケーションのステータスを Active に設定する前に ' このアプリケーションのインストール用にライセンスファイルをアップロードするよう要求しますこの手順は 'VDS のアプリケーション詳細ページで実行します
- i. すべてに表示-アプリケーションエンタイトルメントは、マルチチャネル階層内の特定のサブパートナーに限定できます。評価目的では、チェックボックスをクリックして、すべてのユーザーが使用可能なアプリケーションリストでそのアプリケーションを表示できるようにします。

アプリケーションをワークスペースに追加します

展開プロセスを開始するには、アプリケーションをワークスペースに追加します。

これを行うには、次の手順を実行します。

1. ワークスペースをクリックします
2. [アプリ] までスクロールダウンします
3. 追加をクリックします
4. アプリケーションのチェックボックスをオンにし、必要な情報を入力して、アプリケーションの追加をクリックし、アプリの追加をクリックします。

アプリケーションを手動でインストールします

アプリケーションがワークスペースに追加されたら、そのアプリケーションをすべてのセッションホストにインストールする必要があります。これは手動で行うことも、自動化することもできます。

セッションホストにアプリケーションを手動でインストールするには、次の手順を実行します

1. サービスボードに移動します。
2. サービスボードタスクをクリックします。
3. サーバー名をクリックして、ローカル管理者として接続します。
4. アプリをインストールし、このアプリへのショートカットが [スタート] メニューパスにあることを確認します。

- a. Server 2016 および Windows 10 : C : \ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs 。
5. サービスボードタスクに戻り、[参照] をクリックして、ショートカットまたはショートカットを含むフォルダを選択します。
6. 選択した方が、アプリケーションの割り当て時にエンドユーザーデスクトップに表示されるものです。
7. フォルダは、アプリケーションが実際に複数のアプリケーションである場合に便利です。たとえば、「Microsoft Office」はフォルダとして簡単に展開でき、各アプリケーションはフォルダ内のショートカットとして使用できます。
8. [インストールの完了] をクリックします
9. 必要に応じて、[作成済み] アイコン [サービスボードタスクの追加] を開き、アイコンが追加されていることを確認します。

ユーザにアプリケーションを割り当てます

アプリケーションの使用権は VDS によって処理され、アプリケーションは 3 つの方法でユーザに割り当てることができます

ユーザにアプリケーションを割り当てます

1. User Detail ページに移動します。
2. 「アプリケーション」セクションに移動します。
3. このユーザが必要とするすべてのアプリケーションの横にあるチェックボックスをオンにします。

アプリケーションにユーザを割り当てます

1. [ワークスペースの詳細] ページの [アプリケーション] セクションに移動します。
2. アプリケーションの名前をクリックします。
3. アプリケーションのユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。

アプリケーションとユーザをユーザグループに割り当てます

1. [ユーザーとグループの詳細] に移動します。
2. 新しいグループを追加するか、既存のグループを編集します。
3. グループにユーザとアプリケーションを割り当てます。

AVD のアプリケーションエンタイトルメントワークフロー

概要

Azure Virtual Desktop (AVD) 環境では、アプリケーションアクセスはアプリケーショングループメンバーシップによって管理されます。



このワークフローでは、環境 AVD 配置のみが使用されます。RDS アプリケーションの使用権に関するドキュメントについては、を参照してください ["RDS のアプリケーションエンタイトルメントワークフロー"](#)



AVD は文書化されたサービスで、多くのサービスがあります "[パブリックリソースを参照してください](#)". VDS は、AVD の標準的な動作方法をスーパーシードしません。代わりに 'この記事では 'VDS がすべての AVD 展開で使用されている標準概念にどのようにアプローチするかを説明します



を確認します "[VDS 論理階層の概要](#)" 記事はこの記事を検討する前にまたは間有用であるかもしれない。

エンドユーザービュー

Azure Virtual Desktop では、各エンドユーザに AVD 管理者によって RemoteApp または Desktop へのアクセス権が割り当てられます。これは VDS のアプリケーショングループ割り当てで行います。

- RemoteApp * とは、セッションホスト上でリモートで実行され、デスクトップコンテキストなしでローカルデバイス上で表示されるアプリケーションです。「ストリーミングアプリ」とも呼ばれるこのアプリケーションは、ローカルデバイス上のローカルアプリケーションのように見えますが、セキュリティコンテキストで実行され、セッションホストのストレージレイヤとコンピューティングレイヤで実行されます。
- デスクトップ * とは、セッションホストで実行され、ローカルデバイスで表示される Windows の完全な操作を指します。通常は、全画面表示ウィンドウです。「リモートデスクトップ」と呼ばれる一般的なデスクトップ自体には、そのセッションホストにインストールされているアプリケーションが含まれます。このアプリケーションは、ユーザーがデスクトップセッションウィンドウ内から起動できます。

ログインすると、エンドユーザには管理者によって割り当てられたリソースが表示されます。以下は、エンドユーザが AVD クライアントでログインしたときに表示されるビューの例です。これはより複雑な例です。エンドユーザは、シングルデスクトップまたは RemoteApp のみを割り当てることがよくあります。エンドユーザは、これらのリソースのいずれかをダブルクリックすると、そのアプリケーション / デスクトップを起動できます。

[management.Deployments.VDS サイト 0e49c] | *Management.Deployments.vds_sites-0e49c.png*

このより複雑な例では、このユーザは 2 つの異なるデスクトップセッションと 4 つの異なるストリーミングアプリケーションにアクセスできます。

- * 使用可能なデスクトップ *
 - NVIDIA GPU デスクトップ
 - 共有 AVD プールデスクトップ
 - 操作 2 : プールデスクトップ
- * 使用可能な RemoteApp*
 - AutoCAD 2021
 - Revit 2021
 - Microsoft Edge の場合
 - メモ帳

このようなアプリケーションとデスクトップは、さまざまなセッションホスト、AVD ワークスペースでホストされており、異なる Azure リージョンでホストされている可能性もあります。

次の図は、これらの各リソースがホストされている場所と、これらのリソースがこのエンドユーザにどのよう

に割り当てられているかを示しています。

[management.Deployment.VDS サイト 0e880] | *Management.Deployments.vds_sites-0e880.png*

上に示すように、このエンドユーザーが利用できるさまざまなリソースは、異なるセッションホストでホストされ、異なるホストプールでホストされています。また、異なる AVD ワークスペースの異なる IT 組織によって管理される可能性もあります。この例では示していませんが、VDS サイト機能を使用して、これらのリソースを異なる Azure リージョンやサブスクリプションでホストすることもできます。

デスクトップアクセスの提供

デフォルトでは、すべてのホストプールは 1 つのアプリケーショングループから始まり、Windows デスクトップエクスペリエンスへのアクセスの割り当てに使用されます。これらのセッションホストにインストールされているすべてのアプリケーションは、このアプリケーショングループに割り当てられているエンドユーザーにアクセスできます。

VDS のユーザーに対してデスクトップリソースを有効にするには：

1. ワークスペース > AVD > ホストプール > アプリケーショングループページに移動し、「デスクトップ」リソースのアプリケーショングループをクリックします。

[management.Applications.AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 349fe] |

2. アプリケーショングループ内に移動したら、[編集]をクリックします

[management.Applications.AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 3bcfc] |

3. 編集ダイアログでは、ユーザーまたはグループごとにこのアプリケーショングループにユーザーを追加または削除できます。

[management.Applications.AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 07ff0] |

RemoteApp Access を提供しています

RemoteApp へのアクセスをプロビジョニングするには、ホストプール内に新しいアプリケーショングループを作成する必要があります。作成したアプリケーションは、このアプリケーショングループに割り当てる必要があります。



これらのセッションホスト上のアプリケーションは、このホストプールの「デスクトップ」AppGroup に割り当てられたすべてのユーザーがすでに使用できます。アプリケーションへのアクセスを提供するだけで、RemoteApp グループを介してアクセスをプロビジョニングする必要もありません。RemoteApp グループは、ストリーミングアプリとしてローカルデバイス上で AS IF を実行するアプリへのアクセスを有効にするためにのみ必要です。

新しいアプリケーショングループを作成します

1. [ワークスペース] > [AVD] > [ホストプール] > [アプリケーショングループ] ページに移動し、[+][アプリケーショングループの追加] ボタンをクリックします

[management.Applications.AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー d33da] |

2. このアプリグループの名前、ワークスペース、フレンドリ名を入力します。割り当てるユーザーまたはグループを選択し、 Save(保存) をクリックします

[management.Applications.AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 242eb] |

アプリケーションをアプリケーショングループに追加します

1. ワークスペース > AVD > ホストプール > アプリケーショングループページに移動し、「RemoteApp」リソースのアプリケーショングループをクリックします。

[管理アプリケーション .AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 3dcde] |

2. アプリケーショングループ内に移動したら、[編集]をクリックします

[管理アプリケーション .AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 27a41] |

3. 下にスクロールして「リモートアプリ」セクションに移動します。このセクションでは、VDS が直接セッションホストに照会して、ストリーミングに使用可能なアプリケーションを表示するために、データを入力する時間がかかる場合があります。

[管理アプリケーション .AVD アプリケーションエンタイトルメントワークフロー 1e9f2] |

4. このアプリケーショングループのユーザーが RemoteApp リソースとしてアクセスできるアプリケーションを検索して選択します。

Copyright Information

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system- without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.